

YORII ARUKI - WALK AND LOOK  
あっ

## LOOK

A-LOOK YORII

2026 Spring

寄居を見て、歩くまちなか情報紙

あっLOOKは、寄居町が発行するまちなか情報紙です。寄居を歩き、町を見て、皆さんのお気に入りを見つけてみてください。

CONTENTS P2-3 氏邦桜・寄居北條まつり  
P4-5 癒やしのおすすめスポット紹介  
P6-7 寄居町地域おこし協力隊  
P8 中心市街地のお店に聞く



悠久の時を受け継ぎ、  
人が紡ぐ春。

## 氏邦桜

鉢形城主・北条氏邦の名を受け継ぐ桜



春の訪れを感じさせるように、寄居町に咲き誇る一本の桜があります。鉢形城跡に根を張り、長い年月を越えて生き抜いてきたエドヒガン（愛称「氏邦桜」）。鉢形の地に息づく歴史とともに、寄居の春を彩ります。

春の青空に映える、美しい氏邦桜は毎年訪れる人々を魅了します。その繊細な花びらが風に揺れる様子は、春の訪れを感じさせます。

「エドヒガン」は日本の桜の中でも古い品種のひとつです。その名の通り春の彼岸時期に開花する桜です。笠鉾（かさぼこ）状に広がった淡紅色の花が特徴で、枝いっぱい咲く姿は生命力を感じさせます。鉢形城跡に根を張っている氏邦桜は樹齢150年を超えると推定され、その姿は見るものを圧倒します。樹形も見事で、枝はしっかりと広がり、力強さを感じさせるとともに、繊細な花びらとの対比が美しい景観をつくり出しています。2003年（平成15年）には町指定天然記念物に指定されました。

氏邦桜、そして春らんまんの寄居町へ

4月になると氏邦桜に続けとばかりに、町では地域の人たちが大切に守り育ててきた桜が、あちらこちらで春を彩ります。

桜の見頃や場所など詳しい情報は、「一年中桜に出会える町よりい実行委員会」が発行するパンフレットや町公式ホームページをご覧ください。春らんまんの季節、桜色に染まる町へお越しください。



←寄居町公式ホームページ  
(桜の名所案内 寄居桜百景)

## 寺山さくら農園ライトアップ

ライトアップ期間に咲き誇るのが、濃い桃色の花が鮮やかな桜「陽光」です。夜空にも映える華やかな品種です。

日時／3月22日(日)、27日(金)～29日(日)

4月3日(金)、4日(土)

午後5時30分～8時30分

※開花状況により日程が変更となる場合があります。

その他／車でお越しの方は、農園南側の駐車場をご利用ください。

問い合わせ／一年中桜に出会える町よりい実行委員会  
会長・大久保さん (TEL 090・6106・2849)

寄居町大字折原地内 (介護老人保健施設「逍遙の郷」南)



## 氏邦桜ライトアップ

昼の桜とはひと味違う幻想的な雰囲気の中、ゆっくりと桜を楽しむことができます。夜空に浮かび上がる古城の桜を眺め、春のひとときをお過ごしください。

日時／3月20日(金・祝)～4月5日(日)

午後5時30分～8時30分

※開花状況により日程が変更となる場合があります。

問い合わせ／鉢形城歴史館 (TEL 048・586・0315)

寄居町大字鉢形地内 鉢形城公園内 (「鉢形城歴史館」北西)  
寄居駅南口から徒歩約20分



桜からまつりへ。

戦国時代の城跡に春の彩りを添える氏邦桜。

名の由来となった北条氏邦は、この地を守り抜いた武将として今も語り継がれています。

その戦いの歴史を今に伝えるのが、寄居北條まつりです。

寄居北條まつりは、1590年(天正18年)豊臣秀吉の小田原征伐の際、鉢形城に陣取った郷土の武将北条氏邦が、前田利家・上杉景勝率いる約5万人の豊臣連合軍を相手に、約3500人の兵力で1カ月余り攻防戦を続けたときの戦いを再現したものです。鉢形城で激しい攻防を繰り広げた壮絶な戦いの様子が、まつりのメインイベントとなっています。

まつり当日は、甲冑(かっちゅう)を身にまとった武者隊のパレードから始まります。総勢約500人もの武者が寄居駅南口の中央通り線に集結。武者やのぼり旗が並び、多くの観客も集まります。武者隊の参加団体は、町内企業のほか、町内の小中学生、姉妹都市の小田原市や八王子市、北条氏ゆかりの地など20団体を超えます。

勇壮な武者が隊列を組み、市街地を練り歩きながら玉淀河原に向かいます。武者隊が玉淀河原に集まると、武士が出陣する際の儀式で総大将が「打ちあわび、勝ち栗、昆布」の3品と盃を干し、必勝を祈願する「三献の儀」が行われます。その後、見どころである攻防戦や、一騎討ちの開始。大砲の轟音が響き渡ります。

北条軍と豊臣連合軍に分かれた武者が、攻防戦を繰り広げる様子はまさに圧巻です。

ぜひ第65回寄居北條まつりにお越しいただき、実際に攻防戦などの迫力を間近で感じてみてください。皆さんのお越しをお待ちしております。



## 北条の魅力を もっと身近に、もっと広く



北条五代を大河ドラマに！  
署名数70,633票 (目標500,000票)

北条五代観光推進協議会は、北条氏にゆかりのある14市町(寄居町を含む)の行政と観光協会が連携し、北条氏のさまざまな偉業や魅力を活用した観光事業を展開しています。

現在、同協議会では、北条五代のNHK大河ドラマ化を目指し、署名活動を実施しています。署名は、オンラインを通じて行うことができるほか、寄居町では、下記の5カ所に署名回収箱を設置していて、今後もさらに署名数の増加を目指して活動を続けていきます。

皆さまのご協力をお願いします。

- 署名回収箱設置場所
- ・寄居町観光協会
  - ・鉢形城歴史館
  - ・寄居駅南口駅前拠点施設 Yotteco
  - ・役場1階総合案内
  - ・役場4階プロモーション戦略課窓口



↑オンライン署名はこちらから

※署名数は令和7年11月現在



観光アプリ  
「風雲Yotte GO! 謎解き寄居町  
～鉢形城攻防戦～」

町では、AR・VR等のデジタル技術を活用した観光アプリ「風雲Yotte GO! (ヨッテゴー) 謎解き寄居町～鉢形城攻防戦～」を配信しています。鉢形城跡や市街地を中心に、観光スポットを紹介するほか、籠城戦ゲームやスタンプラリー等、子どもから大人まで楽しめるアプリになっています。

おすすめの機能は、鉢形城デジタル御城印の獲得ができることです。この機能は、町内各地で待ち受けるAR武将から出題されるクイズにすべて正解することで、鉢形城デジタル御城印をダウンロードできます。

Androidをお使いの方



iPhoneをお使いの方



# おすすめスポット紹介

## 風布・金尾エリア

寄居町には、自然や歴史を感じることができるスポットがあります。その中で、風布・金尾エリアの魅力をご紹介します。年間を通じて観光客が訪れる、自然に親しまれているエリアです。森と川に育まれた澄んだ空気は訪れた人に安らぎと癒やしを与えてくれます。



1

## 波久礼駅

レトロな駅舎

レトロな駅舎が印象的な秩父鉄道「波久礼駅」。この地区の玄関口で、駅を起点に里山の風景や空気感から、春の訪れを味わえます。列車の音とともに、ゆったりとした時間が流れる波久礼駅は、風布・金尾の春へと歩き出す最初の場所です。



2

## 金尾山

自生山つつじ約5,000株と山

波久礼駅から  
徒歩約20分

春になるとつつじが山肌を彩る金尾山（別名：つつじ山）は、波久礼駅から徒歩約20分と訪れやすく、散策を楽しむ人々に親しまれています。4月中旬から下旬にかけて約5,000株の赤いつつじが咲き誇り、里山に鮮やかな彩りを添えます。つつじは自生しており、自然のままの景色が楽しめるのも魅力です。視界いっぱいに広がる赤いつつじの風景は、春の寄居を感じるのにふさわしいスポットです。

3

## 夫婦滝

二条の滝が心を癒やす

波久礼駅から  
徒歩約10分

夫婦滝は荒川の支流である風布川にかかる滝で、落差約3m、二条の滝が寄り添うように流れ落ちることから、夫婦滝と呼ばれています。川のせせらぎや滝の音で心が安らぎ、リフレッシュできるスポットです。緑萌える夫婦滝、紅葉に映える夫婦滝など、季節によって豊かな表情を見せてくれます。





# 寄居町地域おこし協力隊

地域おこし協力隊とは、都市部の人材が地方へ移住し、地域活性化活動に取り組みながら、その地域への定住・定着を図ることを目的とした制度です。人口減少対策や地域振興対策として、総務省が推進しています。

令和5年度に寄居町に着任し、地域おこし協力隊として活動してきた2人が令和7年度末をもって任期満了となります。

両隊員は、町の中で人と関わりながら、分野における取り組みを3年間にわたって行ってきました。地域の人の出会いや対話を大切にしながら、それぞれの強みを生かして活動しました。

## きっかけ

「移住支援、創業支援、空き家・空き店舗利活用促進」を担当した松本隊員。移住先の候補地を探す中で寄居町を訪れ、ご自身が移住を決めていく過程で「移住を考える人の力になりたい」と気持ちが動いたことがきっかけと話してくれました。



松本哲明（まつもと てつあき）  
神奈川県出身。移住支援、創業支援、空き家・空き店舗利活用促進を担当。



現地で魅力を伝えた松本隊員

## 農ある暮らし移住塾

移住支援ということで移住ツアーなどのイベントを精力的に行ってきた松本隊員。「寄居町・農ある暮らし移住塾が一番開催してよかった取り組みです」と振り返ります。農業体験を通じて移住後の暮らしを具体的にイメージしてもらうことを目的に、令和7年4月から11月まで月1回開催しました。移住者でも畑が借りやすい町の魅力も伝え、参加者は年間で約20人にのぼりました。地域の人も運営に関わることで自然な交流が生まれ、町での暮らしや移住について身近に感じてもらえる機会となりました。



農ある暮らし移住塾 案内

## 移住の実績

松本隊員は業務に取り組み中で、「人の暮らしに寄り添うことを何よりも大切にしていきたい」と話します。移住支援を軸に、創業支援の文脈でスモールビジネスの勉強会を開催し、空き家や空き店舗の物件化を進めてきました。制度やノウハウを伝えるだけでなく、「どんな暮らしをしたいのか」「何を大切にしたいのか」といった内面に目を向けた関わりも重視。それぞれの業務を独立したものはなく、相互に循環するものと捉えながら活動を展開しました。その結果、令和7年度は5組の方を寄居町への移住につなげることができました。

## 今後も寄居町で

4月以降も寄居町を拠点に活動される松本隊員。「都市へのアクセスと里山の暮らしが共存する寄居の魅力を決世代へつないでいきたいと考えています。今後は、農ある暮らしを始めたい方の支援や空き家活用などに取り組みながら、地域を盛り上げる人たちをつなぐ活動をしていく予定です」と今後の展望について話しました。

## 最後に

対話を大切にしたい取り組みや実践は、町民だけでなく、寄居町に関心を持つ人々にも届いています。協力隊としては、一区切りとなりますが、松本さんが寄居町で過ごした関わりは、確かに町の中に残っています。

「この3年間、温かく受け入れ、見守っていただけたこと、本当に感謝しております。試行錯誤の連続でしたが、地域の皆さんに支えていただけて、ここまでたどりつくことができました。これからも寄居町と関わり続けていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いします」と語ってくれました。



移住ツアーで寄居町での生活について説明する松本隊員



内川雄生（うちかわ ゆうき）  
東京都出身。魅力向上・集客促進  
を担当。

## きっかけ

「魅力向上・集客促進」を担当した内川隊員。地域おこし協力隊になったのは、東京の生活に一区切りをつけ、祖母の生家周辺地域への移住を検討していた際に立ち寄った寄居町の自然環境などにひかれたこと、松本隊員からの誘いがあったことがきっかけだと思います。令和5年8月に着任されてから自身の強みである「書道」を生かして寄居町の魅力向上・集客促進に取り組みました。

## ワークショップの開催

内川隊員は着任後、ワークショップの開催を通して人と人とのつながりを築いていきま



にじみを楽しむワークショップ

した。書道家というアーティストとしての視点も持つため、一般的な発想にとらわれない、自由で新しい切り口のイベントや企画を数多く手がけました。

令和7年度では、木材を使った「木工遊び」を皮切りに、墨を磨って濃淡を楽しむワークショップや、さまざまな漢字の部首を集めて新たな漢字を創作し、書にするワークショップを講師として開催していきましました。これまでの活動では、書道などを通して、参加者が「アートでの表現を体験し、非日常を感じる」ことを大切にしたり取り組みが印象的でした。



手磨りの墨を使ったワークショップに真剣に取り組む参加者

## 町民交流

月に一度、年齢や職業の異なる人たちが集まる食事会での交流が、内川隊員を支える大きな存在になっていました。また、内川隊員がお茶を習い始めたことで、「一人の町民として地域に自然と溶け込めたと感じ、思いやりによって成り立っている点や、交流がほどうい距離感を保つ町民性について印象に残っている」と語ります。



演劇ワークショップには町内外から参加者が集まった

## 新たな試み

これまで内川隊員が講師として行ってきたワークショップに加え、令和7年8月には俳優・傳田（でんだ）うにさんを招く新たな取り組みの演劇ワークショップを実施しました。民話「雨と龍神さま」を元に参加者で演劇を行い、「さまざまな考え方や表現に触れられる場となり、参加者にとっても新鮮な体験となりま

した」と内川隊員は満足そうに話しました。



日本の里 紅葉ライトアップに合わせてライブパフォーマンスを行った

## 最後に

ワークショップの開催や町民交流などを通して活動してきた内川隊員。「多くの出会いと経験に恵まれた3年間への感謝を胸に、今後も成長を重ねながら活動を続けていきたい」と語ってくれました。

松本隊員と同様に4月以降も寄居町を拠点とする内川隊員。今後寄居町で書道教室を開く予定とのことで活躍が期待されます。

町民と出会い、対話を重ねながら活動してきた両隊員の取り組みは、3年間という時間の中で、少しずつ町に馴染んできました。

それぞれの分野での活動は「町の人とともに考え、動く」という姿勢は2人共通しており、その積み重ねが、地域との信頼関係を育んできたといえます。

令和7年度末をもって任期を終えますが、両隊員が関わってきた人や場所、取り組みの多くは今後も寄居町の中で生かされていきます。

町での経験や出会いが、それぞれのこれからの歩みに生かされるとともに、町の中でも新たな動きへと受け継がれていくことを期待しています。

# 中心市街地のお店に聞く — 移住とお店を開くきっかけ —

整体・ヨガ& CAFE  
Carinho (カリーニョ)

写真左から、村岡卓也さん（福島県会津若松市出身）、妻・香織さん（埼玉県秩父市出身）。夫婦で「整体・ヨガ& CAFE Carinho」を営み、卓也さんはカフェ、香織さんは整体とヨガを担当している。

## 自然の豊かさと利便性のバランス、そして人とのつながり。寄居町を選んだ穏やかな人柄のご夫婦のお店。

中心市街地にある「整体・ヨガ& CAFE Carinho (カリーニョ)」は、整体やヨガに加え、こだわりのコーヒーを楽しめるお店です。

店名の「カリーニョ」は、ポルトガル語で“愛情表現”という意味。整体やコーヒーを通じて、相手を思いやる気持ちを大切にしています。

寄居町に移住したのは2014年（平成26年）ごろ。「自然が身近にあることに加え、地盤が固く災害が少ないこと、鉄道3路線や自動車でのアクセスが良いことと、子育てするのに適した場所であることが移住の決め手でした」と卓也さんは話します。

お店を開くきっかけは香織さんが町内外のさまざまな場所に出向き、整体の施術を行ってきたことでした。「施術を受けた人からの評判が広がり、人とのつながりも少しずつ増えていく中、コロナ禍をきっかけに、寄居町でお店を持ちたいという思いが強まり、町の中に拠点となる場所を探そうと思いました」と香織さん。

同じ頃、卓也さんも、好きなコーヒーを通して人が集まる場所をつくりたいと考えており、移住後の暮らしや日々の関わりの中で築いてきた縁が重なり、中心市街地に店を構えるという選択へとつながっていきました。

現在の店舗は、もともと歯科医院として使われていた建物で、カフェスペースは、どこか懐かしさを感じさせるノスタルジックな雰囲気が漂い、整体の施術室には、歯科医院時代の診察室を、当時の雰囲気を残しながら活用しています。建物の記憶を残した空間づくりも、この店ならではの特徴です。

「派手な宣伝はせず、少しずつ、できることから」

来店した方一人一人と丁寧に向き合い、整体やコーヒーを通して関係を築いていく姿勢は、まさに“愛情表現”。整体で身体を整え、一杯のコーヒーで心を癒やす。穏やかで優しい笑顔のご夫婦が皆さんをお待ちしています。



① 元歯科医院の外観 ② ノスタルジックなカフェスペース ③ 淹れたてのコーヒー  
④ メニューにはカレーも ⑤ 整体の施術室

編集後記 まちなか情報紙「あっLOOK」No. 9を手にとっていただき、ありがとうございます。氏邦桜や寄居北條まつり、癒やしのおすすめスポットなど、町の魅力をあらためて見つめ直しました。任期満了を迎える地域おこし協力隊のお二人の記事には、任期最終年での取り組みを紹介しました。また、中心市街地で営まれる「カリーニョ」は、店名のとおり思いやりにあふれたお店です。お忙しい中インタビューにご協力くださったカリーニョのお二人に、心より感謝申し上げます。春の寄居町には、自然や歴史、人の想いがあふれています。本号をきっかけに、ぜひまちへ足を運んでみてください。

### 整体・ヨガ & CAFE Carinho



住所 寄居町大字寄居958-2（寄居駅南口から徒歩4分）

営業時間 午前10時～午後3時

店休日 金曜日（他、店休日あり）

SNS Instagram/X：@carinho\_yorii

※お支払いは現金のみとなります。